

池上裕子(いけがみひろこ)特任助教:2008年4月1日着任

1. 論文・著書

「巴里のアメリカ人:イリアナ・ソナベンド画廊の市場戦略」、『西洋美術研究』第14号
(三元社、2008年9月):106-120頁(査読有)

2. 学会・シンポジウム発表

「ポスト・コンフリクトの日米美術交流」、国際シンポジウム「移動とアイデンティティ:
コンフリクトと新たな地平」(大阪大学・サンパウロ大学共催、2008年8月)(査読有)

3. GCOE内の研究プロジェクト活動

「戦後日本美術の越境性と文化コンフリクト」研究プロジェクト代表者、計4回の研究会開催
「日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイヴ」副代表、作家への聞き取り調査担当

聞き取り例:嶋本昭三、元永定正、山崎つる子、堂本尚郎、荒川修作、篠原有司男など

第12回「コンフリクトの人文国際」公開セミナー研究報告(大阪大学、2008年6月)

「1960年代における国際美術シーンのアメリカ化について」

第24回「コンフリクトの人文国際」公開セミナー主催(大阪大学、2009年1月)

「オリジナリティのカー新たなモダニズムの語りに向けて、あるいは私たちが『具体』から
学べること」、ミン・ティアンポ講師(カナダ、カールトン大学準教授)

4. 2009年度に発表が決定済みの研究業績

The Great Migrator: Robert Rauschenberg and the Global Rise of American Art,
(Cambridge, Mass.: The MIT Press, forthcoming 2010) (単著・査読有)

「戦後の国際美術シーンにおける日本美術:ニューヨーク近代美術館を中心に」
美術史学会第62回全国大会(京都大学、2009年5月)(査読有)

“ROCI in East: Considering Rauschenberg’s Agency in China,” International Symposium
“East-West Interchanges in American Art,” (Smithsonian American Art Museum,
Washington DC, October 2009) (査読有)

「グローバル化と芸術」(パネリストとして発表・討議参加)、美学会第60回全国大会
(東京大学、2009年10月)

5. 研究資金取得状況

科学研究費補助金(若手研究スタートアップ)「国際美術シーンにおける日本的アイデンティ
ティの形成:戦後の日米美術交流を中心に」(研究代表者、平成20年度~21年度)

石橋財団「日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイヴの構築」

(共同研究者、平成20年度~23年度、研究代表者:住友文彦)